

目黒稽古場だより

2026/1 月
No.45

目黒稽古場 菊地実

090 (4755) 5697
megurokeikojo@s7.so-net.ne.jp

新年が明けましたが、どのような年末年始をお過ごしでしたでしょうか。

すでにご存じの方も多いかと思いますが、身体教育研究所は、四月をもって、整体協会から独立し、新団体として活動することになりました。四月からは「一般社団法人 晴風学舎」として活動する予定です。

つきましては、目黒稽古場も整体協会から独立し、晴風学舎の一員として新たな一歩を踏み出します。当稽古場に来られている会員様にはご不便をおかけしますが、「理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

この「晴風」に込められたものはもちろん、野口晴哉という人物の何かに触れたい、経験したいという思いであるが、それは整体操

法の技術でもなく、活元運動でもなく、愉氣法でもない、そういった方法ではなくて、それらを生み出した野口晴哉の言葉にできない何か。それは晴哉先生自身も気づかずに行ってきたものかも知れない。その何かを探索し、稽古という形で経験し、自身の人生に染み込ませてゆく。私自身はそのような思いで晴風という意味を捉えています。

それは新しいことではなく、今までもダン先生が稽古場で行ってきたことであります。

野口晴哉を稽古する。野口晴哉以前を稽古する。すると野口晴哉という固有名詞が消え、そこにある何かは「晴風」としか言いようがないと思える。

私が稽古場に入門した当時、ダン先生がよく言っていたことが、

「生命とは動いているもの」

「形以前に動きがある」

姿形は見えないが、まず初めに動いているものがある。だから「動法」なんだと。

その動きは太古から途切れることなく動いているもの。その太古からの動きを考える、迎え入れるから「稽古」なんだと。

風

まず動くことだ。

形なくも動けば形あるものを動かす、その動かされているものを見て動いているものを感じるに至る。

動きを感じれば共感していいよ動き、天地にある穴皆声を発す。竹も戸板も水も音を立てて動くことを後援する。土も舞、木の

飛び、家も揺らぐ、電線まで音を出して共感する。

天地一つの風に包まる。

まず動くことだ。

隣のもの動かすことだ。

隣が動かなければ先隣を動かすことだ。

それが動かなければ次々と動くものを多くしてゆく。

裡に動くものの消滅しない限り、動きは無限に多くなってゆく。

それが風だ。

誰の裡にも風をおこす力はある。

動かないものを見て、動かせないと思っではいけない。裡に動くものがあれば必ず外に現れ、現れたものは必ず動きを発する。

自分自身、動き出すことがその第一歩だ。

(野口晴哉全集 第十巻

P629より)

今年も宜しくお願い申し上げます。

菊地実